

○暖かい気持ちがあつたお布団は

布団づくり、まったく携わってなかったのですが、非常に貴重な体験をさせて頂いて、ありがとうございます。

布団を受け取ったママさん達のお礼の言葉の中では、不安はあるけどみんなで協力し合って内部被曝を抑え「ここ郡山で子供を育てていく」覚悟を涙ながらに伝えてくださって…その強く思う気持ちをヒシヒシと感じました。

こんな覚悟をさせてしまったのは、私達大人たち。そして福島原発は福島の人達を使っていない電力のためのもの。そう思うと辛くて仕方ありませんでした。

改めて、郡山含め、福島のママや子供達を支えていく活動、もうこれ以上被害を拡大させないための活動をできることからしていきたいと思いました。それは、この茨城県南～東葛の一部線量の高い地域のママや子供達を支えるヒントになる活動かもしれません。

それから、綿の種から、布団になるまでの一部始終をスライドやお話して伺えて「ただのお布団ではないんだなあ」と思いました。色んな人々の子供達を思う温かい気持ちがたっぷり詰まったお布団はきっと郡山の子供達を優しく包んでくれるだろうなと思いました。

そして、あいコープふくしまの皆さんが作ってくださった心のこもったお食事すばらしかったです。前日から煮込んだいも煮、もちもちご飯、シャキシャキサラダ、優しい味のなすのみそ田楽、あま〜い梨やりんごなど、どれもが美味しかったです。

本当に、この心の通った交流に立ち会えたことを光栄に思います。ありがとうございました。(稲垣)

○叶うことなら

けな気でいっしょうけんめいな方たちと会って、お話ししてきました。お話を聴きながら窓の外を見れば、青い空も木々の緑も、行き交う車も、すべてが日常に見えるのです。

しかし、放射能のため、「窓を開けられない」「洗たく物は室内で」「赤ちゃんのお布団にカビが生えた・・・」。お布団も太陽に干せない現実があるのです。

叶うことなら、心配のいらぬ空気を届けたいです。

どうか、本物の綿でできたお布団のぬくもりに包まれて、元気に、すくすく成長してほしいと祈るばかりです。(菅原)

○私の半分しか生きていないのに苦勞の体験は

ただただ連れて行っていただいております。

福島で若いお母さん方の穏やかな笑顔に、信じられない思いでした。何と美しいことかと。私の半分しか生きていないのに、苦勞の体験は同じくらいしてしまったのでしょうか。

「手弁当」と思っていたら、おしながき付きの手料理を用意していただき、この準備にどれほど時間がかかったことかと思えます。この底力はどこから出るのでしょうか。やはり長年の充実した食生活の結果でしょうか。

綿花や綿への工程なども初めて聞く事ばかり。輸入綿との違いを聞いて大きな意味を感じました。私の勝手な神話を作りました。お布団シェルターです。生まれたばかりの赤ちゃんはほとんどお母さんの手の中か、お布団の中。この中に入れればきっと、放射能から守られることでしょう。(清水)

○放射能との闘いをあきらめずに

今日は思いがけず、赤ちゃん布団の贈呈式に参加させていただきありがとうございました。会では本当にいろんなことを勉強させていただきました。

綿繰機を廻して、綿実を取り出したり糸巻き機で糸ができていく様子を生まれて初めて目の当たりにしてビックリしました。こんな歴史の本に出てくるような機械が今でも通用するのだ、ということに改めて感動を覚えました。世の中には仕事が無いという声が多いですが、このような和綿を栽培し、綿を造る仕事を創り出したら素晴らしいと思いました。

郡山のお母さんたちの強さにも強く胸を打たれました。幼子を守り、家族との生活を大事にする。放射能との闘いをあきらめずに、仲間と手を取り合って続けていく。このようなお母様方に本物の和綿で造った布団を届けられた場に立ち会えて本当に幸運でした。(松岡)

●「東海第2原発再稼働中止・廃炉を求める署名」(第一期)

たくさんのご協力ありがとうございます。10月末までに集めて頂いた分を11/8(火)に茨城県知事・原電に提出します(署名運動は、再稼働予定が来年8月に延期されたことから、来年まで継続し、さらに多くの声を集める予定です)。「東海村 村上村長さんへの激励メッセージ」も同日お届けできるよう調整しています。

11/8(火)は、県南地域からもバス数台をチャーターして県庁(水戸)に向かいます。生協本部発バスは10:00出発、つくば市役所桜支所からは10:30発、土浦市民会館から10:30発です。

ごいっしょできる方は、11/4までに生協本部までご連絡下さい。(050-5511-3926 まで)

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から半年

放射能はとにかく生協が検査し続け、チェックします。
組合員のみなさん!

放射線に打ち克つ
「食卓づくり=身体づくり」を!

原発震災という歴史事件に直面し、放射能にふりまわされた2011年。

もう一度、じっくり考える。

人々がつながり、力を合わせて子どもたちを守る。

放射能汚染と低線量被ばく生体損傷という現実の中で、静かに判断力を研ぎ澄ます。

「生き抜く力と知恵」をつける。

生産者と消費者が食の安全を確かめ合いながら、力ある食でいのちを守る。

もう一度、家族の健康の基礎=食卓に立ち返りましょう。

考えて、考えて、確信を持っておすすめしたいのは

ミネラル・ビタミン・繊維がつまった「野菜・海藻」と「発酵食品」。



充実の
具沢山味噌汁

家族の健康の源=食卓をいっそう充実したものに!

まずは「ごはん」をしっかり食べること。

ミネラル・ビタミン・繊維の栄養価の高い滋味ある旬の野菜を頂くこと。

腸内細菌を増やし免疫力をつける納豆、味噌、漬け物、キムチ、醤油。

腸内細菌を育む繊維の宝庫、豆類・海藻類・玄米・雑穀を。

●地場「有機野菜セット」、契約受付中!

田畑と作物の放射能移行を調べまわりました。土壌から野菜へのセシウム移行率は1/100前後。そのことがわかった今、母なる大地に感謝して、栄養価値の方を重視して頂きたい。やはり、地場の旬、栄養価の高い滋味ある「有機の野菜セット」をおすすめします。

家族の状況をふまえつつ、地場の「有機野菜セット」への再結集を! ただいま再契約受付中!

●「放射能をやっつける身体づくり」発酵食品講習会

納豆の登喜和食品 遊作社長さんをお呼びして

11/18(金)9:30~12:30 龍ヶ崎市 久保台公民館調理室 申し込みは、生協本部までお電話にて

【10/20 福島の赤ちゃんに和綿ふとんを贈る交流会(郡山市)】

福島のお母さんから逆に 涙と勇気をいっしょに頂いて帰ってきました。



和綿ベビー布団の贈呈
村井理事長、川亀ふとん店倉持夫妻、福島の柳沼さん



福島のお母さんたちのお話を聞く



福島のお母さんたちから



あいコープふくしま歓迎の言葉

○生命をつないでいこうとする知恵と力

私も役に立てるかもの思いで参加させてもらった綿繰り。その綿がすてきなお布団になって、福島の赤ちゃんたちを守るようになりました。

今回の旅では、綿繰機をつくって下さった方など綿につながる皆様にもお会いでき、あいコープの皆様の心のこもったおいしい手作り昼食も頂きました。

放射線量の高い中での子育てを決意されたお母さんたちのお話には涙、涙でしたが生命をつないでいこうとする知恵と力で、きっとこの困難は乗り越えられるという両理事長の力強いメッセージに元気を頂きました。本当に貴重な体験をありがとうございました。(久木元)

○少しでもお役にたてた事嬉しく

三人で綿繰りした綿が見事なお布団や座布団となり、あいコープ福島のお母さん達に手渡し出来た事に感激しました。

皆さん心の暖かい方達ばかりで、真心のこもった手料理美味しく頂きました。

理事長さんがコーヒー豆を挽いてカップを温めて注がれるのには驚きました。

郡山の皆さん、この地で「生きていきます」と力強いことばでおっしゃられ、困難に負けないで、大変でしょうが、乗り越えてほしいと思います。少しでも世の中のお役にたてた事嬉しく思います。(池松)

てすることを決意したお母さん。

生協で放射能検査された安心の食材を唯一の頼りに、そして先輩組合員の暖かい助けと見守りがあって、皆に支えられて生きている安心感となり、くじけそうで不安な気持ちが勇気と希望になったこと、そして今日、遠く茨城の生協の仲間みなさんにまでこうして暖かく見守ってもらえることにたくさんの感謝の気持ちを頂きました。

思わず、涙、涙になりましたが、逆に私たちの方が勇気をもらい、生協の仲間にいること、共に支え合って生きてゆくことの大切さを教えてもらった気がします。

帰りのバスをみんなで手を振っていつまでも見送ってくださったお母さんたち、大変な中でも元気な子を



綿繰り、綿紡ぎを「あいコープふくしま」のお母さんたちに伝え交流する常総組合員

○あいコープ福島の皆様へ

今日はお心こもるおもてなし、本当にありがとうございました。小さなお子様の子育ての最中、私達をむかえる準備は大変だったでしょう。却って恐縮でした。

美しい郡山の街で、心優しい郡山の人達との交流をもてた事に感謝です。

あのいまわしい3月11日から7か月が経ちました。でも収束の道は遠く、これからの事を思うと怒りをとりにこして悲しみと絶望で胸がいっぱいになります。しかし、きょう郡山のお母さまがたのおはなしを聞いているうちに私のほうが逆に元気をいただいたような気がしました。私も今日から郡山のお母様と一緒に一歩前進です。お心のこもったお料理の数ととても美味、そしてコーヒーも御馳走さまでした。

最後まで、バスを見送ってくださった小さな可愛いぼうや、皆様ありがとう。いろいろな思いが交錯して言葉を失うほどの思いに最後は涙、なみだのお別れでした。また、お会いしましょう。お元気で。未来ある子供達に平和を願いつつ感謝の気持ちを込めて。(植原)

○勇気と元気を頂いてきました

今日はありがとうございました。郡山市のあいコープふくしまの育児中のお母さん、妊娠中のお母さん方の「ざーっとこの地で」子育てをして行くと決意された力強さにとても勇気と元気を頂いてきました。

私はこの震災と原発事故で双葉町郡山の故郷をなくしました。まだまだ目に見えない放射能に苦しめられます。”食と命”をかかげる常総生協は、正しい情報を発信し、輪を広げ風評に惑わされない組合員であるために、未来のためにお願いします。

☆ふかふかお布団でスヤスヤzzzzz・・・と寝る子はよく育つ。元気に育て下さい。

☆あいコープふくしまのみなさんの愛情たっぷりなお料理本当にご馳走様でした。見えなくなるまで手を振ってお見送り下さり、ありがとうございました。(柝本)



玄米ごはん、芋煮、田楽、漬物、サラダ、梨。手作りのお昼をごちそうになりながら。

20組の和綿布団 / 川亀ふとん店

○胸に秘めた覚悟と力強さと温かさ

大震災から7ヶ月。なかでも福島の皆様は原発事故という大災害にもあわれ、お心持ちはいかばかりかと遠くから案じるばかりでした。しかし、いち早く救援に取り組み常に被災された方々に寄り添う姿勢の常総生協のあり方には信頼出来るものを感じております。そして今回、生協同志の絆の強さも実感しました。何よりもあいコープふくしまの方々の決して声高でない万感の想いを胸に秘めた覚悟と力強さと暖かさに熱い感動を覚えました。何年先にどんなことが起こるか分からない状況ではあっても、細い細い糸ではあっても、皆でしっかりつかまってつながっていけることと思います。

村井理事長の綿のお話にも感動いたしました。今回のプレゼントの作業にはお役に立つことが出来ませんが、同行をさせて頂きましたことはとても刺激になりました。ありがとうございます。(野澤)

○大変でしたね、お疲れ様でしたね・・・

郡山あいコープふくしまの若いママ達の出迎え姿を見ただけで私は何の言葉も出ないほど、ただ、ただ「大変でしたね、お疲れ様でしたね」という気持ちでいっぱいになりました。

あったかな赤ちゃん布団を持って行ったことが、大変つらい日々の毎日の中で、少しでも心に灯をとすことができたこと、良かったなあと思いました。

また綿の栽培から布団の綿になるまでの過程を学ぶことができとても良かったです。来年はぜひ参加したいと思います。

郡山の地で子育てをすると決意されてたママたちをこれからも支援することが大切だと思います。私もそのために微力ながらできることをやります。声をかけて下さい。よろしくおねがいします。(丸町)